

平成28年度 学校経営方針

○はじめに

先の見えない変化の激しい時代である。このような時代だからこそ、自分の将来に夢や希望をもつことが大切である。中学生の時期は、身体的にも精神的にも著しく成長する時期であるが、自分に対して自信がもてなかったり、他人の言動に深く傷ついたり、不安定になりやすく、そのためにトラブルも起こしやすい。

このような多感な中学生に対し、教職員が一致団結してチームとなり、柔軟で多面的な対応ができることが大切である。さらに、保護者や地域、保育園や小学校と連携・協働して、課題に取り組むことで、生徒一人一人に自信（**自己肯定感**）をもたせることができる。また学校内外のさまざまな貢献活動を通して、**自己有用感**を育てることも重要である。この2つを育てることが、**困難に対して、たくましく生きる力**を身に付けることに繋がり、その力が将来に対して夢や希望をもつことに繋がると考える。

生徒が自分自身の良さに気づき、仲間と力を合わせ、協力して困難を乗り越えられる力を身に付け、将来に夢をもった生徒の育成を目指し、次の言葉を掲げ取り組んでいく。

「出雲崎に愛着と誇りをもち、粘り強く挑戦し、未来を切り拓く、たくましい生徒」

○学校経営の基本

1 目指す学校像

- 1 目標に向かって挑戦し、一人一人の良さを発揮できる学校
- 2 体験活動やかかわる活動によって、自己肯定感や自己有用感を高める学校
- 3 教育課題を家庭・地域・学校で共有し、課題解決に向けて連携・協働する学校

2 目指す生徒像

- 1 学ぶ喜びを感得し、支え合って、ともに学ぼうとする生徒
- 2 人権意識を高め、自分や相手の良さがわかり、互いを尊重する生徒
- 3 生活習慣やメディアコントロールの大切さを知り、自ら健康・体力向上に取り組む生徒
- 4 毎日の日常活動を大切にし、着実な取り組みを継続できる生徒（凡事徹底）
- 5 生徒会活動や学校行事、地域行事に真剣に取り組む生徒（社会貢献）
- 6 進路に向けて考え、努力し、未来を切り拓く力を身に付けようとする生徒

3 目指す職員像

- 1 組織の一員として、参画・協働でき、一枚岩となれる職員
- 2 学力向上のための授業改善に取り組み、生徒とともに学び続ける職員
- 3 保護者や地域の願いに耳を傾け、期待に応える職員
- 4 生徒・保護者・地域から信頼される職員
- 5 安心・安全な学校づくりに心を配る職員
- 6 陰で支え、周到な準備で生徒を全面に押し出す活動をつくる職員
- 7 ゴールを見据えて活動を組み立てる職員
- 8 常に笑顔で、ゆとりがあり、生徒の変化に敏感な職員
- 9 非違行為をしない、させない、許さない職員

4 具体的方策

- (1) 確かな学力の向上と定着を図り、生徒の学ぶ意欲を育てる教育の推進
 - ①学習規律を確立し、ともに学び合うという観点から学習ルールを定着させる。
 - ②「学ぶ喜びを感得する授業」を目指し、授業改善と指導力の向上に努める。
 - ③家庭学習の習慣化を図るために、実態に合った取組を家庭や小学校と連携して行う。
- (2) 豊かな人間性や社会性を育む教育活動の推進
 - ①互いの良さに気付き、課題解決のためにファシリテーション・学級討議などの手法を推進する。
 - ②生徒会活動・学校行事・体験活動・地域貢献活動の充実を図り、生徒一人一人が他人の役に立つ経験を通して、自己有用感を醸成する。
 - ③地域人材を生かした道徳の授業づくりに取り組むとともに、学年部単位による人権教育・同和教育の充実を図る。
- (3) 実効性のある職員研修の充実
 - ①指導者として生徒のよさを伸ばす活動を組織し、生徒との信頼関係を構築する。
 - ②「集団づくり」に重点をおき、ソーシャルスキルやエンカウンダー、リレーション等による人間関係づくりに取り組み、親和的で自治的な集団を目指す。
 - ③研修計画に基づき、職員間で学び合い、互いに切磋琢磨できる職員集団を醸成する。
- (4) 気力や体力の向上・望ましい生活習慣の定着
 - ①授業や部活動、行事を通して生涯にわたって健康で生活できる気力・体力を育む。
 - ②自らの生活を律し、メディアコントロールと「早寝・早起き・朝ごはん」を通して健康的な生活をおくることができる生徒を育てる。
- (5) 特別支援教育・インクルーシブ教育の充実
 - ①特別支援教育やインクルーシブ教育を推進するために校内研修を実施するとともに実態に合った体制づくりを図る。また近隣の特別支援学校・医療機関と連携を図る。
 - ②在籍する障がいをもつ生徒や通常学級で支援の必要な生徒の実態把握に努め、個々の生徒の実態に応じた対応を全職員で図る。また、UDLの視点を取り入れた学習環境づくり、授業づくりに全校体制で取り組む。
- (6) 保護者や地域との連携と小中一貫教育の推進
 - ①資源回収や出雲崎大祭など地域に出向く活動に積極的に参加させるとともに、地域貢献しながら、生徒の自己有用感を高め、地域を愛する生徒に育てる。
 - ②出雲崎町は、9年間の小中一貫教育の教育方針が明確である。この共通した方針のもと、授業公開の交流をはじめさまざまな活動を通して小中連携を推進し、効果的な教育を展開する。
- (7) キャリア教育の推進
キャリア教育の指定を受けたことを活用し、年間計画に基づき、生徒一人一人の夢の創造と実現のために保護者・地域と連携し、実現のための支援を行う。
- (8) 情報の発信と集約
 - ①保育園や小学校・高等学校と情報交換を図るとともに、地域に出向き、学校に対する意見や要望に耳を傾け、保護者や地域のニーズに応えられるよう整備していく。
 - ②学校だよりやホームページ、メール配信等を積極的に保護者や地域に発信する。